

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター芳川担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 12 月 17日（火） 13 時 30 分 ～ 15 時 00 分
2 開催場所	南行政センター 大会議室
3 参加者	25名 委員13名（芳川地区4名、河輪地区5名、五島地区4名）、関係機関6名、事務局4名
4 協議の内容	<p>1.開会</p> <p>2.挨拶 芳川圏域生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3.協議事項</p> <p>① 前回の振り返り SCより、第1回協議体会議の振り返りをした。</p> <p>②【情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芳川圏域（芳川・五島・河輪）における集いの場の紹介 集いの場として各地区シニアクラブの紹介を行った。 芳川地区：石原町「福寿会」、五島地区：遠州浜四丁目「三睦会」、河輪地区：西町「西和会」 それぞれ開催日、場所、時間、実際の様子を紹介を行った。また、紹介したシニアクラブの中で実際にシニアクラブを運営している委員に話を伺いながら行った。 <p>[紹介した委員から一言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月誕生会を行っている。年に数回程度の参加者もいるが誕生会だけ参加してくれれば外出の機会となってよい。 ・一人暮らし高齢者も参加している。また、参加者の中には、民生・児童委員もいる為、見守り機能にもなっている。 ・年2回芳川全体で旅行に行っている。 ・活動内容をその日の参加者がやりたい事をする場合もある。（皆で飲食店に出かけるなど） ・定例会は皆で昼食をとる。食事があると集まりやすいと思う。 ・お菓子、飲み物を用意している。 ・1人に負担が偏らないように準備等交代制にしている。 <p>また、SCがシニアクラブを訪問し、実際感じた事・集いの場ポイントを伝えた。</p> <p>①居場所に集まる事自体外出の機会となり、生活にメリハリがつく</p>

- ②参加者で食事をする事、準備する人、音頭をとる人など自分にとって役割がある事で、生きがい・社会参加・生活の楽しさに繋がっている
- ③ロコモ体操、レク運動など無理なく楽しく運動できる機会になっている
また、自然と健康意識も高くなる
- ④会う機会があり、会話する事で、1人していると何となく抱く孤独感が防止される
- ⑤何気ない会話の中で自分自身にとってほしかった情報を知ることができる、(反対に自分が教える事で生きがいにも繋がっている)

・芳川圏域生活支援ボランティア入門講座について

CSWより、芳川圏域生活支援ボランティア入門講座の案内を行った。

内容: ボランティアの需要に対して、ボランティアについての講義～体験参加、振り返りを含めた入門講座

開催日時: 令和7年 ①1月17日(金) ②1月22日(水)

会場: ①河輪町下公民館 ②新橋会館

①【意見交換】グループワーク

レクリエーション用具を体験しながら意見交換を行った。

芳川圏域では、地域で高齢者を見守っていくためや、閉じこもりを防止するために、高齢者の居場所・集いの場を創出できるか、活性化できるかということを話し合っている。実際に体験してもらい、今後活動していく上での材料にしていく。また、身体を動かしながら、混ざり合ってお話をする事で、新たなアイデアの創出を行った。

さらに、レクリエーション用具貸出一覧表(浜松・西・北・浜北・天竜地区センター)を紹介した。

<体験した用具>

浜松地区センター: ボッチャ

北地区センター: ディスゲッター、スカットボール、ゲーゴール、ボールボード、室内グラウンドゴルフ、ソフトチーズボード、輪投げセット

6. 次回の協議内容について

日時: 令和7年2月27日(木) 9時30分から11時00分まで

場所: 南行政センター 大会議室

7. 連絡事項

支払い口座依頼書について

8. 閉会

芳川圏域生活体制づくり協議体 副会長

5 今後の見通し・
必要な対応

今回の協議体では、第1回芳川圏域生活支援体制づくり協議体に引き続き、SCがこれまで訪問した集いの場として今回は、各地区シニアクラブの紹介を行った。

紹介時協議体委員の中で、実際に訪問先の運営をしている方に話を伺うことで、運営者の熱い気持ちや、やりがい、日々活動をしていて感じていること等を知ることが出来たり、伝えたりすることが出来る良い機会にもなっている。

また、意見交換では、レクリエーション用具を体験しながら意見交換を行った。芳川圏域の協議体内容は、閉じこもりを防止するために、高齢者の居場所・集いの場を創出できるか、活性化できるかということ話し合っている。話し合いの中で、集いの場で「企画作りに困っている」という声があった。その為、実際に自由に体験してもらい、自分が運営している居場所や、地域に持ち帰れるようにした。身体を動かしながら、混ざり合っ意見交換することで様々な気づき、新しいアイデア等共有した。

留意点：今回他地区センターのレク用具を含め紹介をした為、他地区センターに問い合わせが増える可能性もある。協議体では、あくまでも自分達で予約を取り、予約先のセンターに取りに行くことを前提としていることを伝えている。

今後については、1月中旬実施予定である、芳川圏域生活支援ボランティア入門講座の体験や、今回のレク用具体験から、高齢者の居場所・集いの場を創出・活性化について引き続き協議を深めていく。